

都道府県別にみた宿泊型ゲストハウスの開業実態

松原 小夜子*

Actual Business Conditions of Guest Houses by Prefecture

Sayoko MATSUBARA

1. はじめに

1.1 宿泊型ゲストハウスの特徴

近年、日本において「ゲストハウス」と呼ばれる簡易な宿泊施設が増加している。ゲストハウスは旅館業法上、簡易宿所に分類される宿で、①素泊まりを基本とし、②ドミトリーと呼ばれる相部屋形式が主で、③台所や居間など何らかの共用空間を有し、④素泊まり・相部屋であることから、宿泊費が安価であることなどを特徴としている。トイレや洗面、浴室などは共用で、浴室はシャワーのみの場合が多い。寝具の準備や食事の支度、片付けなど、身の回りのことは自ら行う方式である。

旅館や民宿では、1泊2食付を基本とし、部屋単位の料金であるため、家族連れやグループでの利用が有利であるが、相部屋形式のゲストハウスでは、一人でも同一価格で宿泊できる。台所や居間などの共用空間があって、食事づくりやくつろぎ時、あるいは近所の銭湯や温泉施設利用時などに、宿泊者同士の交流が生まれやすいこともあり、一人旅でも気軽に利用することができる。

海外では、ホステルやバックパッカーズなどと称される簡易な宿が多く存在してきた。日本では、1980年代以降、円高や格安航空券の出現、バックパッカー向けガイドブックの出版などにより、海外を旅する若者が増え（須藤 2008）、こういった若者が、簡易な宿の魅力を知って、日本でも開業しようとしたことが、日本におけるゲストハウス出現の背景であると考えられる。各宿のホームページを見ると、オーナーは元バックパッカーで、既存の空き家を探し出し、各種申請の上、開業にこぎつけている例が多い。各地の空き家活用にも貢献している。また、宿としての申請において、宿泊に供する部分が100m²以下の場合、建築の用途変更が不要であることから、小規模な宿が多く、個人経営のオーナーが、各々特色ある運営をしていることも特徴である。

* 生活科学部 生活環境デザイン学科

1.2 各方面の既往研究と本研究の目的 1

こういった特徴をもつゲストハウスは、学問的にも様々な方面から注目される存在であるといえ、観光学、地理学、心理学、都市計画学、建築学などの分野で、近年、研究が行われつつある。

まず、ゲストハウスの概要を捉えようとした研究がある。石川と山村（2014）は、「ゲストハウス」等と自称している宿を探り、2012年5月時点で353軒抽出している。これらのうちアンケート調査に回答した100軒のデータをもとに、開業年、経営形態、建物形式、宿泊料金、相部屋および交流スペースの有無などを捉えている。同じ調査をもとに、石川（2014）は、開業動機に関する自由記述回答から、国内におけるゲストハウス台頭の社会背景として、訪日外国人増加と宿泊需要の高まり、日本の宿泊施設形態の選択肢の少なさという2点を挙げている。永田（2013）は、京都市内のゲストハウスを捉え、2013年8月時点で81軒存在すること、海外での低廉宿泊施設経験者が2000年以降に京都市内でゲストハウスを開業しはじめたことが急増の端緒であることを指摘している。下口（2012）は、ゲストハウスの一般的な特徴を紹介し、下口（2010）は、金沢市に立地する外国人に評価が高い宿の事例を報告している。

次に、ゲストハウスの特徴の一つである宿泊者等の交流機能に着目した研究もなされている。石川（2012）は、長野県の、地域密着型のゲストハウス事例を取り上げ、宿のイベントおよび地域の人々の集まりを調査し、ゲストハウスが、旅行者の宿泊先としてだけでなく、旅行者を含め、地域社会にかかわる多様な人々の交流の場としての役割も担っていることを指摘している。片桐ほか（2015）は、東京都内の事例での聞き取り調査をもとに、非宿泊者と宿泊者の交流を捉え、地域の生活者が旅行者と接することで、観光客や観光対象としての地域の価値への意識を高めるなど、ゲストハウスが、着地型観光のゆるやかな人材育成の場となり得ることを指摘している。林と藤原（2012）は、見知らぬ他者との交流を目的とした旅行を「交流型ツーリズム」と名付け、国内各地のゲストハウスにおける参与観察と、オーナー等への聞き取り調査をもとに考察し、交流型ツーリズムが、自己の発見と統合の過程の繰り返しによって、自己実現をうながす可能性があることを指摘している。

さらに、地域との関連やまちづくりへの寄与に着目した研究もなされている。澤田と岡（2012）は、関西4都市に立地するゲストハウス経営者へのアンケート調査と、5軒の事例での観察調査等から、経営者は、まちづくりに関心を持った人や実際に活動している人が多いこと、ゲストハウス開業は、周辺施設の利用客増など、まちを活性化する効果を持ち、住民からも期待されていることを指摘している。小林と森永（2015）は、併設施設が有る、またはイベントが開催されている場合を「地域に開かれたゲストハウス」と定義し、典型4事例を選定して聞き取り調査を行い、ゲストハウスは、多様な人々に開かれ地域文化を体感できる「まちの宿」としての役割を持っていると考察している。長田ほか（2015）は、11事例のゲストハウスへの聞き取り調査と観察調査から、空き家を利用する過程で地域と関わって開業に至っていること、素泊まり・シャワーのみといった宿の形式が、結果として周辺店舗との連携を生むことなどを指摘し、ゲストハウスは、地域に依存することで機能を満たしていると考察している。

このように、ゲストハウスは、安価な宿というに留まらず、宿泊者も含め地域にかかわ

る人々の交流の場を生み、着地型観光のゆるやかな人材育成の場ともなり、まちづくりへの関与やまちを活性化する効果もあり、交流型ツーリズムを通じての自己実現の契機ともなること等々、多彩な特徴と魅力を有する存在であることが論じられており、今後一層の研究の発展が期待される。

しかしながら、現時点で、そもそも日本にはどれくらいのゲストハウスが存在しているのか、いつ頃から増加しているのかといった基本的な情報は必ずしも明らかではない。ゲストハウスを統括する何らかの団体は存在せず、旅館業法上の「簡易宿所」の軒数にも他の簡易な宿が含まれていることなどから、正確な数字は、現状では把握しにくいなどの事情による。ゲストハウスに関する多彩な研究の一層の発展のためにも、全国的なゲストハウスの軒数や開業時期といった基本的な実態把握が必要であるといえる。

そこで本研究では、全国のゲストハウス軒数などの現状を、できるだけ正確に把握することを第1の目的とする。

1.3 住居学的研究意義と本研究の目的2

先に述べた諸分野の研究的観点に加えて、ゲストハウスは、「住居学」的観点からも注目し得る存在である。住居学とは、空間に関わる暮らし方に関する学問である。ゲストハウスでは、食事や寝具の準備といったサービスを受けず、自ら行うため、宿泊者は、暮らすように泊まる疑似生活体験をすることになる。連泊者あるいはリピーターが多いことも、疑似生活体験と関連深いと考えられ、各宿が提供する暮らしの器や暮らし方の特徴が、宿泊者、とりわけ若者の、暮らし方や暮らしの価値観に何らかの影響を及ぼすのではないかという予測が成り立つ。こういった点で、住居学的観点からの多面的な研究が求められると考える。

こういった視点から、本研究では、住居学的研究の端緒として、古民家を利用したゲストハウスに注目することとしたい。歴史的に価値ある古民家は文化財として各地に保存され、見学できる建物も多く貴重な存在であるが、住まいは暮らしの器であることから、見学と同時に、実際の暮らしを体験することも重要である。そこで本研究では、全国の古民家ゲストハウス軒数などの実態を、できるだけ正確に把握することを第2の目的とする。

2. 方 法

2.1 ゲストハウス関連ウェブサイトの検索

方法として、まずは、全国のゲストハウスを一覧できるウェブサイトを検索し、一覧の充実度が高いと考えられるサイトとして、「ふらっと」と、全国の小規模宿を紹介する「旅行と宿のクリップ」を主に参照することとした。他にも、ゲストハウスや古民家に関する各種ウェブサイトを参照して、新規の開業情報などを逐次収集した。次に、これらウェブサイトに掲載された各宿のホームページにアクセスして、2.2で述べる定義に該当するか否かを捉え、該当する宿を抽出した。

各宿のホームページには、ドミトリーなどの宿泊形式や価格などが記載されている。開業年や開業経緯、開業趣旨などが詳しく書かれているものも多い。多くの宿がフェイスブックやブログを開設しており、これらにも各種情報が記載されている場合もある。そこ

で、各宿のホームページやフェイスブック、ブログなどから基本情報を得ることとした。収集した基本情報の項目は、立地する都道府県市町村、ドミトリーの有無、ドミトリーの宿泊価格、共用空間の有無と種類、開業年、古民家か否か、古民家の場合の建物種別と築年数、古民家の場合の寝具種別などである。なお、開業年が不明な場合や、古民家か否かの判断にあたって築年数が不明な場合は、直接、宿に問い合わせを行った。

2.2 ゲストハウスの定義と抽出

本稿では、ゲストハウスの定義を、①素泊まりを基本としている、②ドミトリーと呼ばれる相部屋がある、③トイレや洗面、シャワー等が共用で、台所や居間など何らかの共用空間がある、の3つとした。

なお、宿によって、様々なタイプが存在したが、抽出にあたっては、以下の点に留意した。①素泊まりを基本としつつ、朝食のみ選択可能な「B&B」方式や、朝夕2食を選択可能なものは含めた。②ドミトリー形式以外に、個室を選択できるものも含めた。③「ホステル」「バックパッカーズ」「宿」などの名称であっても、上記定義にあてはまるものは含めた。④宿が「ゲストハウス」という名称を付けていても、上記定義にあてはまらないものは除いた。⑤今回の3つの条件に該当していても、「部屋貸し」のみ、「一棟貸し」のみの場合や、カプセルベッドタイプの場合は除いた。⑦ユースホステル協会に属する「ユースホステル」は除いた。⑧「ライダーハウス」と称する宿泊場所のみを提供するものは除いた。⑨一旦開業されていたが、現時点（2015年8月末）では休業しているものも数件あったが、これらは除いた。⑩以前は旅館や民宿形式で営業していたが、ゲストハウス形式での営業に変更したものは、ゲストハウス形式での営業開始時点を開業年とした。⑪ゲストハウス形式の継続であってもリニューアルオープンしたものは、リニューアルオープン時点を開業年とした。

2.3 古民家の定義と抽出

「古民家」の定義は、学術的に統一されていないが、今回の古民家ゲストハウス抽出にあたっては、「日本の伝統的な建築様式を有しているもので、昭和25年以前に建築された建物（築65年以上）」とした。これは、昭和25年11月に、建築基準法が施行されていることから、それ以降の建物は、近代的な工法の影響を受けている可能性があると考えたためである。古民家の建物種別は、住宅については、「農家」「町家」と、農家形式以外の「戸建」の3つに区分した。なお、住宅以外の建物を利用したもの（元旅館や蔵など）も、「他建築」として含めた。

3. 結果と考察

3.1 ゲストハウス数

都道府県別のゲストハウス数を示したものが表1である。比較検討のため、観光庁「宿泊旅行統計調査」結果より、2014年6月時点の旅館やホテル、簡易宿所などの宿泊施設数も示した。

まず、ゲストハウス数は、今回調べた限りでは、2015年8月末時点で、全国522軒で

あった。全国の宿泊施設数は49,984軒であり、このうちのゲストハウスの割合は、1.04%と少ないことがわかる。

全国を10地区に分けて、地区別にゲストハウス割合をみてみると、沖縄が5.18%と最も多く、次いで、近畿2.73%、北海道1.48%、中国1.06%、四国0.99%、関東0.72%と続く。ゲストハウス割合が最も少ないのは、東北の0.11%である。

都道府県別にゲストハウス数をみると、沖縄県が最も多く102軒である。沖縄県は、全国で唯一、宿泊施設統計において「ドミトリー・ゲストハウス」の区分を設けており、沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課（2015）によれば、2014年12月時点で221軒存在することがわかる。ただし、「ドミトリー・ゲストハウス」の定義は、「多人数で共用する宿泊室があり、低料金で宿泊できる簡易宿所。個室を併設している場合もある。」としており、家族やグループによる同室利用を前提としている宿や、台所や居間などの共用空間がない場合なども含まれているといえ、本稿の定義よりも広い範囲の宿が含まれていると考えられる。

沖縄県の次には京都府が多く82軒（うち京都市が80軒を占める）である。次いで、北海道37軒、さらに、東京都29、長野県28、大阪府25など20軒台が続く、さらに奈良県16、岐阜県と広島県12、神奈川県と香川県11、岡山県10など10軒台へと続く。そして、石川県、愛知県、兵庫県、福岡県、熊本県が9軒、静岡県と鹿児島県が8軒である。岩手県、山形県、茨城県、佐賀県には、今回調べた限りでは、ゲストハウスは開業されていなかった。

表1には、ゲストハウス数および宿泊施設数の順位も示している。まず、ゲストハウス数と宿泊施設数の順位を比べてみると、両者ともに高い地域は、沖縄県、京都府、北海道、東京都、長野県、神奈川県である。一方、ゲストハウス数順位は高いが、宿泊施設数順位は低い地域が、大阪府、奈良県、香川県である。この背景として、大阪府では、大阪市内の労働者向け簡易宿所が国外旅行者向けゲストハウスへと再生され増加したこと（松村2011）、奈良県では、観光客数に比べて宿泊施設が少なく、観光地としての宿泊需要がゲストハウスの開業を促していることなどが推察される。逆に、ゲストハウス数順位は低い、宿泊施設数順位は高い地域が、福島県、群馬県であり、ゲストハウス開業の可能性が潜在していると考えられる。

3.2 ドミトリーの宿泊価格

ゲストハウスは、安価な宿泊施設であるといわれているが、実際のドミトリー価格を示したものが表2である。ドミトリー価格は、男女混合相部屋か、男女別相部屋かによって若干異なる場合もあるが、ここでは最も低価格の場合を抽出している。

全体では、2500円台が最も多く、209軒（40.0%）、次いで、3000円台が105軒（20.1%）であり、2500円から3500円未満までで60.2%を占めている。平均価格は2644円であった。

4000円を超える例は14軒あり、4000円6軒、4500円2軒などで、最高価格は5000円（3軒）であった。4000円を超える例では、朝食付き1軒、朝食付きで築300年の合掌造り1軒、軽朝食付きで世界遺産白川郷近接のもの1軒、近隣に食材を購入できる商店や飲食店がないため朝夕の食材費を含んでいるもの4件、富士観光など立地がよいもの4件、湯治場1件、重要伝統的建造物群保存地区に立地または隣接するもの2件など、価格相応

表1 都道府県別ゲストハウス数・宿泊施設数

	GH数	順位	宿泊施設数	順位	GH割合(%)
北海道計	37	3	2,495	3	1.48
青森県	2	36	557	37	0.36
岩手県	0	45	705	28	0.00
宮城県	5	24	692	29	0.72
秋田県	1	40	552	38	0.18
山形県	0	45	929	23	0.00
福島県	1	40	1,943	6	0.05
東北計	9		7,873		0.11
茨城県	0	45	681	30	0.00
栃木県	5	24	1,222	15	0.41
群馬県	1	40	1,119	17	0.09
埼玉県	1	40	355	46	0.28
千葉県	6	22	1,135	16	0.53
東京都	29	4	1,546	8	1.88
神奈川県	11	10	1,325	12	0.83
関東計	53		7,383		0.72
新潟県	5	24	2,085	4	0.24
富山県	3	33	426	45	0.70
石川県	9	13	585	33	1.54
福井県	2	36	954	20	0.21
北陸計	19		4,050		0.47
山梨県	5	24	1,311	13	0.38
長野県	28	5	4,446	1	0.63
甲信計	33		5,757		0.57
岐阜県	12	8	932	21	1.29
静岡県	8	18	2,680	2	0.30
愛知県	9	13	931	22	0.97
三重県	6	22	1,456	9	0.41
東海計	35		5,999		0.58
滋賀県	1	40	572	35	0.17
京都府	82	2	1,437	11	5.71
大阪府	25	6	561	36	4.46
兵庫県	9	13	1,449	10	0.62
奈良県	16	7	454	43	3.52
和歌山	7	20	653	32	1.07
近畿計	140		5,126		2.73
鳥取県	3	32	485	40	0.62
島根県	4	29	585	34	0.68
岡山県	10	12	723	26	1.38
広島県	12	8	749	25	1.60
山口県	3	32	471	42	0.64
中国計	32		3,013		1.06
徳島県	4	29	482	41	0.83
香川県	11	10	453	44	2.43
愛媛県	7	20	667	31	1.05
高知県	2	36	719	27	0.28
四国計	24		2,321		1.03
福岡県	9	13	845	24	1.07
佐賀県	0	45	316	47	0.00
長崎県	5	24	1,552	7	0.32
熊本県	9	13	1,017	19	0.88
大分県	3	32	1,023	18	0.29
宮崎県	4	29	507	39	0.79
鹿児島県	8	18	1,232	14	0.65
九州計	38		6,492		0.59
沖縄県	102	1	1,970	5	5.18
全国計	522		49,984		1.04

GH：ゲストハウスの略記

都道府県別にみた宿泊型ゲストハウスの開業実態

表2 都道府県別宿泊価格別ゲストハウス数

(単位：軒)

	計	2000円未満	2000～	2500～	3000～	3500～	4000～	平均値(円)	4000～の備考
北海道計	37		4	10	20	3		2,932	
青森県	2		1			1		2,460	
岩手県	0								
宮城県	5		1	4				2,460	
秋田県	1					1		3,600	
山形県	0								
福島県	1						1	5,000	朝夕食材, 古民家
東北計	9		2	4		2	1	2,978	
茨城県	0								
栃木県	5			3	1	1		2,900	
群馬県	1					1		3,500	
埼玉県	1				1			3,000	
千葉県	6			5	1			2,808	
東京都	29	1	4	12	12			2,782	
神奈川県	11		2		3	6		3,172	
関東計	53	1	6	20	18	8		2,895	
新潟県	5	1	1	1		1	1	2,780	松代駅近く
富山県	3				1	1	1	3,667	軽朝食, 合掌造り
石川県	9		2	5		1	1	2,844	湯治場
福井県	2				1	1		3,400	
北陸計	19	1	3	6	2	4	3	3,016	
山梨県	5			1	2		2	3,524	2軒：富士河口湖町
長野県	28		1	10	10	4	3	3,133	2軒：朝夕食材(1軒:古民家)
甲信計	33		1	11	12	4	5	3,193	1軒：松本駅近く
岐阜県	12			5	3	3	1	3,175	軽朝食, 白川郷近く
静岡県	8	1	1	3		3		2,831	
愛知県	9			4	4		1	3,082	朝夕食材, 古民家
三重県	6		1	5				2,567	
東海計	35	1	2	17	7	6	2	2,968	
滋賀県	1			1				2,800	
京都府	82	3	12	36	25	5	1	2,683	重伝建地区近く, 古民家
大阪府	25			20	1	3	1	2,876	重伝建地区近く, 古民家
兵庫県	9			8	1			2,722	
奈良県	16		5	8		3		2,644	
和歌山	7		1	3	1	2		2,943	
近畿計	140	3	18	76	28	13	2	2,729	
鳥取県	3			2	1			2,867	
島根県	4		1	2	1			2,725	
岡山県	10			3	3	4		3,138	
広島県	12		1	10	1			2,625	
山口県	3			3				2,667	
中国計	32		2	20	6	4		2,824	
徳島県	4		1	2	1			2,575	
香川県	11			5	3	2	1	3,045	朝食
愛媛県	7		1	4	2			2,642	
高知県	2			1	1			2,750	
四国計	24		2	12	7	2	1	2,825	
福岡県	9		1	7	1			2,622	
佐賀県	0								
長崎県	5		2	3				2,460	
熊本県	9		1	7		1		2,644	
大分県	3	1	2					1,933	
宮崎県	4		2	2				2,320	
鹿児島県	8	6	1	1				1,835	
九州計	38	7	9	20	1	1		2,354	
沖縄県	102	47	37	13	4	1		1,913	
全国計	522	60	86	209	105	48	14	2,644	

の理由があるといえる。

地区別に平均価格をみると、甲信が3193円で最も高く、次いで、北陸3016円、東北2978円、東海2968円、北海道2932円、関東2895円などであった。最も低い価格は、沖縄の1913円、次いで九州の2354円であった。全般に、西日本よりも東日本の方が、価格帯は高い。寒冷地では、冬季に暖房費が加算される場合が多い。

都道府県別では、価格分布と平均値からみて、相対的に価格が高いのは、北海道、神奈川県、山梨県、長野県、岐阜県、愛知県、京都府、和歌山県、岡山県、香川県など10県、逆に、相対的に低価格であるのは、宮城県、三重県、奈良県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県など14県である（ゲストハウスが2軒以下の地域は除く）。四国や九州、沖縄で価格が低く、特に沖縄県では、1500円未満が9軒、1500～2000円未満が38軒あり、価格分布でみると最も低い。鹿児島県も、1500～2000円未満が6軒あり、平均値では最も低い結果であった。

3.3 ゲストハウス開業年

近年急増しているといわれているゲストハウスであるが、実際の開業年を示したものが表3である。なお、宿への問い合わせを行ったが回答を得られなかったものが、沖縄県に7軒あった。

今回調べた限りでは、初期の開業は1970年代が2軒（京都府1軒、沖縄県1軒）、1980年代が3軒（京都府2軒、長野県1軒）であった。1990年代には11軒に増えている。2000年から2004年までは、各年10軒未満であるが、2005年には12軒、2006年17軒、2007年20軒、2008年24軒と徐々に増加し、2009年以降は、年間30軒以上開業されている。そして、2013年には70軒へと急増し、2014年には85軒となった。2015年は、8月末時点の軒数であるが、ゲストハウス開業月は、全般に春季や夏季に多いことを考え合わせると、概ね2014年と同等の数になるのではないかと予測される。

地区別にみると、沖縄、北海道、関東、甲信では、2007年以前から現在まで、徐々に増加してきている。東海、近畿、九州では2008年以降に増加し、東北、北陸、中国、四国では2011年以降に増加しており、近年、全国的に急増するに至ったことがわかる。

都道府県別では、ゲストハウス数が多い沖縄県、京都府（京都市）、北海道や東京都、長野県、大阪府、奈良県などでは、比較的早い時期から開業されているといえる。

3.4 古民家利用ゲストハウス数

古民家を利用したゲストハウスについて、建物種類別、宿泊価格別、開業年別に軒数を示したものが表4と表5である。古民家利用ゲストハウスは、522軒中118軒（22.6%）であった。建物種類別にみると、農家利用が22軒（18.6%）、町家利用が65軒（55.1%）、農家以外の戸建利用が22軒（18.6%）、その他の建築利用が9軒（7.6%）であった。全国的には、町家利用が最も多いことがわかる。農家では、築年数が古いものや地域の名士の邸宅など、歴史的価値の高いものも含まれている。京都市以外の町家22軒は、城下町や宿場町などに立地しており、国指定登録有形文化財1軒、国選定重要伝統的建造物群保存地区内6軒である。戸建てでも、国指定登録有形文化財が1軒ある。

地区別では、近畿61軒、東海15軒、甲信9軒、関東と北陸7軒などである。都道府県

都道府県別にみた宿泊型ゲストハウスの開業実態

表3 都道府県別開業年別ゲストハウス数

(単位：軒)

	計	～2007年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
北海道計	37	7	1	4	3	4	2	3	10	3
青森県	2							1	1	
岩手県	0									
宮城県	5					2			3	
秋田県	1							1		
山形県	0									
福島県	1					1				
東北計	9					3		2	4	
茨城県	0									
栃木県	5				2			1	1	1
群馬県	1	1								
埼玉県	1								1	
千葉県	6	1				1		1	1	2
東京都	29	8		2	1	1	4	1	6	6
神奈川県	11	1			2	1	1	4	2	
関東計	53	11		2	5	3	5	7	11	9
新潟県	5	1		1			1	1	1	
富山県	3								3	
石川県	9			2			1	3	2	1
福井県	2		1							1
北陸計	19	1	1	3			2	4	6	2
山梨県	5	2			1	1				1
長野県	28	4	1	1	1	2	1	8	6	4
甲信計	33	6	1	1	2	3	1	8	6	5
岐阜県	12		1	1	1	2	1	1	3	2
静岡県	8	1	1		1	2		1	2	
愛知県	9		1	1				2		5
三重県	6					2		2	1	1
東海計	35	1	3	2	2	6	1	6	6	8
滋賀県	1							1		
京都府	82	21	2	5	7	6	10	9	12	10
大阪府	25		2	1	4	2	4	5	3	4
兵庫県	9			1		3	1	2	1	1
奈良県	16		3	1	3	5	1			3
和歌山	7	2			2		1	1	1	
近畿計	140	23	7	8	16	16	17	18	17	18
鳥取県	3						1		2	
島根県	4						1	1	1	1
岡山県	10					1	2	2	4	1
広島県	12	1	1			1	4		4	1
山口県	3							1	1	1
中国計	32	1	1			2	8	4	12	4
徳島県	4	1	1			1				1
香川県	11	2	1			1	3	2	2	
愛媛県	7						2	1	3	1
高知県	2						2			
四国計	24	3	2			2	7	3	5	2
福岡県	9		1		2	1		4	1	
佐賀県	0									
長崎県	5		1	1	1			1		1
熊本県	9			2	2		3	1		1
大分県	3	1	1					1		
宮崎県	4		1					3		
鹿児島県	8	1		1	1	2	1	1		1
九州計	38	2	4	4	6	3	4	11	1	3
沖縄県	95	45	4	11	7	7	5	4	7	5
全国計	515	100	24	35	41	49	52	70	85	59

2015年は8月末時点の軒数である。沖縄県は、不明が7軒ある。

表4 都道府県別建物種類別古民家利用ゲストハウス数

(単位：軒)

	計	古民家計	農家	町家	戸建	他建築
北海道 計	37	2			2	
青森県	2	0				
岩手県	0	0				
宮城県	5	0				
秋田県	1	0				
山形県	0	0				
福島県	1	1	1			
東北 計	9	1	1			
茨城県	0	0				
栃木県	5	1			1	
群馬県	1	0				
埼玉県	1	1				1
千葉県	6	2	2			
東京都	29	2	1		1	
神奈川県	11	1			1	
関東 計	53	7	3		3	1
新潟県	5	2	2			
富山県	3	2	1	1		
石川県	9	3		3		
福井県	2	0				
北陸 計	19	7	3	4		
山梨県	5	1	1			
長野県	28	8	3	3	1	1
甲信 計	33	9	4	3	1	1
岐阜県	12	7	4	2		1
静岡県	8	2			1	1
愛知県	9	3	1			2
三重県	6	3		2		1
東海 計	35	15	5	4	1	5
滋賀県	1	1			1	
京都府	82	45	1	43	1	
大阪府	25	5		2	3	
兵庫県	9	3		1	1	1
奈良県	16	7	1	3	3	
和歌山	7	0				
近畿 計	140	61	2	49	9	1
鳥取県	3	0				
島根県	4	0				
岡山県	10	3	1	1	1	
広島県	12	2		2		
山口県	3	1		1		
中国 計	32	6	1	4	1	
徳島県	4	2			2	
香川県	11	0				
愛媛県	7	1				1
高知県	2	0				
四国 計	24	3			2	1
福岡県	9	1		1		
佐賀県	0	0				
長崎県	5	0				
熊本県	9	0				
大分県	3	0				
宮崎県	4	0				
鹿児島県	8	0				
九州 計	38	1		1		
沖縄県	102	6	3		3	
全国 計	522	118	22	65	22	9

都道府県別にみた宿泊型ゲストハウスの開業実態

表5 都道府県別宿泊価格別および開業年別古民家利用ゲストハウス数 (単位：軒)

	計	古民家計	2000円～	2500～	3000～	3500～	4000～	～2010年	2011	2012	2013	2014	2015
北海道計	37	2	1		1			1	1				
青森県	2	0											
岩手県	0	0											
宮城県	5	0											
秋田県	1	0											
山形県	0	0											
福島県	1	1					1		1				
東北計	9	1					1		1				
茨城県	0	0											
栃木県	5	1		1									1
群馬県	1	0											
埼玉県	1	1			1							1	
千葉県	6	2		2							1	1	
東京都	29	2		1	1			1			1		
神奈川県	11	1			1				1				
関東計	53	7		4	3			1	1		2	2	1
新潟県	5	2	1			1		1				1	
富山県	3	2				1	1					2	
石川県	9	3	1	1		1		1			1	1	
福井県	2	0											
北陸計	19	7	2	1		3	1	2			1	4	
山梨県	5	1		1				1					
長野県	28	8		2	4	1	1	2	1	1	2	1	1
甲信計	33	9		3	4	1	1	3	1	1	2	1	1
岐阜県	12	7		2	2	2	1	1	2			2	2
静岡県	8	2		1	1				1			1	
愛知県	9	3			2		1				1		2
三重県	6	3		3					2				1
東海計	35	15		6	5	2	2	1	5		1	3	5
滋賀県	1	1		1							1		
京都府	82	45	8	22	13	1	1	16	4	8	7	7	3
大阪府	25	5		4			1			1	1	1	2
兵庫県	9	3		2	1				2	1			
奈良県	16	7	2	5				3	3				1
和歌山	7	0											
近畿計	140	61	10	34	14	1	2	19	9	10	9	8	6
鳥取県	3	0											
島根県	4	0											
岡山県	10	3		2		1			1	1		1	
広島県	12	2		2					1	1			
山口県	3	1		1								1	
中国計	32	6		5		1			2	2		2	
徳島県	4	2		1	1			2					
香川県	11	0											
愛媛県	7	1			1						1		
高知県	2	0											
四国計	24	3		1	2			2			1		
福岡県	9	1		1				1					
佐賀県	0	0											
長崎県	5	0											
熊本県	9	0											
大分県	3	0											
宮崎県	4	0											
鹿児島県	8	0											
九州計	38	1		1				1					
沖縄県	102	6	2	1	1	(2000未満2)		3	3				
全国計	522	118	15	56	30	8	7	33	23	13	16	20	13

2015年は8月末時点の軒数である。

別では、京都府（京都市）が最も多く45軒、次いで、長野県8軒、岐阜県と奈良県の7軒、大阪府の5軒、石川県、愛知県、三重県、兵庫県、岡山県の3軒などである。

次に、宿泊価格別にみると、2500円台が最も多く56軒（47.5%）、3000円台が30軒（25.4%）であり、2500円から3500円未満までで72.9%を占めるなど、ゲストハウス全体の価格分布よりも若干高いが、大きく上回るわけではない。平均価格は2812円と高めであるが、これは、周辺に店舗がないなどの立地条件から、農家利用の6軒で、朝食や朝夕食材込みの4000円台となっているためといえる。古民家を利用したゲストハウスであっても宿泊価格が必ずしも高いわけではなく、通常価格で古民家での暮らしを体験できることに注目しておきたい。

さらに、開業年別にみると、2010年までについては、1990年代に2軒、2000～2005年に9軒、2006～2007に6軒、2008年6軒、2009年5軒、2010年5軒の計33軒であり、全国のゲストハウス開業数と比べると少ないが、2011年には23軒へと急増しており、2011年以降、増加してきていることがわかる。

4. まとめ

近年、日本においてもゲストハウスが増加し、ゲストハウスの有する多彩な特徴に着目した様々な研究も行われつつある。こういったゲストハウスの利用促進や、関連研究の一層の発展に寄与したいと考え、ゲストハウスの開業年などの基本的な実態を可能な範囲で捉えるとともに、住居学的観点からの研究の端緒として、古民家を利用したゲストハウスの基本的実態を捉えることを目的とし、ゲストハウス関連ウェブサイトおよび各宿ホームページ等から情報収集を行った。その結果、以下の知見を得た。

①2015年8月末時点の全国のゲストハウス数は、522軒であり、近年急増しているものの、宿泊施設総数からみると、1.04%という少ない存在である。都道府県別では、沖縄県が最も多く、次いで京都府（京都市）、北海道、東京都、長野県、大阪府と続く。

②ドミトリー価格は、2500円台が最も多く、次いで3000円台が多いなど、2500円から3500円未満が60.2%を占めている。平均価格は2644円であった。全般に、西日本よりも東日本の方が、価格帯は高い。

③ゲストハウスの開業は、2007年までは、沖縄、北海道、関東、甲信が主であったが、2008年以降は、東海、近畿、九州でも開業が始まり、さらに2013年以降には、東北、北陸、中国、四国でも開業され、全国的に急増するに至った。

④古民家利用ゲストハウスは118軒あり、町家が最も多く半数強を占め、農家と農家以外の戸建が同数存在している。都道府県別では、京都府（京都市）が最も多く、次いで長野県、岐阜県、奈良県に多い。宿泊価格は、ゲストハウス全体の価格分布より若干高めであるが大きな違いはないこと、2011年以降に増加してきていることなどがわかった。

参考文献

林幸史、藤原武 2015：旅行者が交差する場としてのゲストハウス——交流型ツーリズムの社会心理学的研究、関西学院大学社会学部紀要（120）、79-87、2015。

都道府県別にみた宿泊型ゲストハウスの開業実態

- 石川美澄 2012：地域社会における小規模宿泊施設の役割に関する一考察——長野市善光寺門前のゲストハウスのイベントを事例として，生活學論叢 (20)，95-102.
- 石川美澄 2014：国内におけるゲストハウス台頭の社会背景に関する考察——質問紙調査を基に，日本國際觀光学会論文集 (21)，99-104.
- 石川美澄，山村高淑 2014：国内における宿泊施設型ゲストハウスの経営と利用の実態に関する研究，都市計画論文集49(2)，140-145.
- 片桐由希子，梶山桃子，東秀紀 2015：都市部の簡易宿所型ゲストハウスにおける交流機能に関する研究，観光科学研究 (8)，61-69.
- 小林祐太，森永良丙 2015：地域に開かれた宿泊型ゲストハウスの実態と可能性に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集2015，191-192.
- 松村嘉久，佐藤有，有村遊馬 2009：新今宮観光インフォメーションセンター設立の経緯と運営戦略——國際ゲストハウス地域の創出に向けた活動報告 (その1～その3)，日本觀光研究会全国大会学術論文集24，333-344.
- 長田浩幸，横山俊祐，徳尾野徹 2015：宿泊施設型ゲストハウスと地域との連関に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集2015，911-912.
- 永田匠 2013：簡易宿所型ゲストハウスの立地展開：京都市を事例に，人文地理学会大会研究発表要旨2013，86-87.
- 澤田彩希，岡絵理子 2012：都市型短期滞在型ゲストハウスの地域まちづくりの可能性に関する一考察，都市計画学会関西支部研究発表会2012.
- 下口治美 2011：外国人に人気の宿——金沢ゲストハウス「ポンギー」の魅力，金城紀要 (35)，119-129.
- 下口治美 2012：日本のゲストハウス——宿泊スタイルの多様化，金城紀要 (36)，95-104.
- 須藤廣 2008：消費社会のバックパッカー——日本人バックパッカーの歴史と現状，北九州市立大学文学部紀要 (人間関係学科) 15，47-66.

インターネット資料

- 観光庁 2015：宿泊旅行統計調査，<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/shukuhakutoukei.html>.
- 沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課 2015：平成26年「宿泊施設実態調査」の結果について，<http://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/kankoseisaku/kikaku/statistics/acmd/documents/h26syukuhaku1.pdf>.